

前掲の八幡東田地区総合開発に関連し、1901(明治 34)年開業の旧官営八幡製鐵所時代の現工場構内に残る歴史的産業遺産群の調査と保存活用と工場機能との調整のための検討調査を担当した。具体的には現存する施設群の工場開設以降の様々な史料や既往建物調査の確認、現況確認と建物等の修復にかかる技術的検討および保存展示そして構内一般開放にかかる諸課題整理とそれに関する計画代替案の作成を、委員会(委員長・片野博九州大学教授)の指導のもとに行った。

本検討は産業遺産群の活用に向けて、2007 年の経済産業省・近代化産業遺産群「八幡製鐵所関連認定遺産」指定、2015 年のユネスコ世界文化遺産登録「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の指定へとつながり、将来の工場機能再編に関連し、既開放の 1901 高炉遺構とともに北九州地域の歴史的産業遺産群を活かした観光振興の主要施設となることも期待される。



東田周辺地域の近代化産業遺産群の位置



八幡製鐵所発祥の地の石碑



当時の大日本帝国製鐵所(旧八幡製鐵所)全図における本事務所建物の位置



日本事務所(1889 年築)

- ・赤煉瓦積石造 2 階建
- ・延べ床面積 1,023㎡
- ・長官室、技術顧問室、技術室などを備え、製鐵所の中核施設として 1922 年まで使用された。
- ・その後、建物内部の老朽化により立ち入り禁止

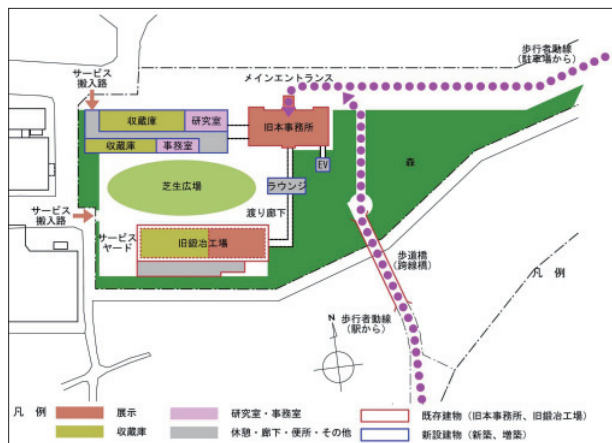


本事務所保存活用検討案の一例



・旧鍛冶工場(1901 年築)

- ・鉄骨造
- ・当初修繕工場の北側に建設されたが大正時代に現在地に移設
- ・現在、製鐵所操業当時の貴重な資料を保管する資料室として活用。



将来の歴史的産業遺産群の保存活用・開放のための構想・代替案の一例



○旧修繕工場(1901 年築)

- ・鉄骨造/現在も稼働している現役の工場

経緯 八幡製鐵所近代産業遺産(建築物)保存・利活用検討'08.10～'09.2 ㈱リンク(新日本製鐵所㈱)、歴史的産業遺産検討委員会・委員長:片野博九州大学大学院芸術工学研究院環境部門教授) 統括:新日本製鐵東田開発企画 GR、総合調整:㈱リンク、史料整理・保管検討:㈱丹青社、全体計画・建物耐震計画等:㈱アフル総合計画事務所 担当:中野、萩原、笠間、柴田